

第1号議案

平成21年度事業報告

概 要

神奈川県支部の平成 21 年度の事業活動は、重度障害者医療費助成制度や在宅重度障害者手当などの問題を主なテーマにしていたましたが、9月になり50数年ぶりの政権交代で今度は、国の障害者施策が大きく変わろうとしています。私たちもこの大きな変化に対応した取組が求められています。

昨年の 12 月に障害者施策の総合的且つ効果的な推進を図る目的で「障害者施策推進本部」が設置され、その下にこれからの障害者制度問題を改めて総合的に見直すための障害者制度改革推進委員会が設置されました。

この障害者制度改革推進委員会の構成員 24 名の内、過半数を占める 14 名が障害当事者とその関係者で構成されていることが、これまでの障害者施策と大きな違いを象徴的に示していることです。

つまり、障害者が保護されるという時代から、権利の主体として直接障害者施策に関わり、立案して行く時代へと変わったことを意味していると言われています。

私たちの活動は、これまで生活しているなかでの様々な不便さや、不足していることなどに対する要求活動を行っていれば、ある程度何とかその要求していたことが満たされてきたという時代が続いてきました。

しかし、これから日本が国連の障害者権利条約を批准することにより、障害者基本法や障害者自立支援法、バリアフリー新法などの不足分や無年金障害者問題、障害者差別禁止法の制定などは全て障害者の権利と言う概念で捉えていくという時代へと変わろうとしています。

このような時代が変化するという歴史的に大きな転換点に私たちは、今立たされていることを意識する必要があります。

神奈川県支部の活動方針も障害者の権利という側面から考えて行く必要がありますが、その一方で脊髄損傷者及び重度障害者を支援する活動も重要な活動であり、ピアサポート活動をその中心的な位置付けにすることは、今後の支部活動においても益々重要な取組みとなります。

障害者権利条約の第 26 条には「締約国は、障害のある人が、その最大限の自立と、十分な身体的、精神的、社会的及び職業的な能力と、生活のあらゆる側面への完全なインクルージョン及び参加を達成し、かつ維持することを可能とするための効果的かつ適当な措置(ピアサポートを通じたものを含む。)をとる。」とされております。

1、重度障害者医療費助成制度活動報告会の開催

神奈川県の重度障害者医療費助成制度、いわゆるマル障の見直しについては、既に平成20年10月から実施されていますが、支部では改めてこれまでの署名活動などの反対運動を振り返るために報告会を開催しました。

12月12日に伊勢原市石田にある「フォーラム246」において、神奈川県障害福祉課の竹内真氏を招き、重度障害者医療費助成制度の見直しについて説明を受けました。

しかし、平成20年3月に発行した「やわらぎ第79号で」でお知らせしたとおり何ら変わらない内容で、所得制限の導入、対象者の見直し、一部負担金の導入などでした。

また、見直しに当たった考え方については、増大を続ける医療費に対応し、一部負担金等を導入することにより、制度の将来にわたる安定的且つ継続的な維持、運営を図ること。

国の医療に関する制度改正が結果的に県及び市町村の支出増を招いている現状に関して、国、県及び市町村がそれぞれ実施している医療制度の役割を明確にし、国の制度を適正に優先適用すべきことについて、利用者に理解を求めること。などとした説明が行われました。

しかし、結局は 1・2 級の重度障害者の医療費助成制度は、原則的に維持されることが改めて確認される結果となりました。この報告会には支部から 17 名が参加しました。

[支部忘年会の開催]

マル障制度の見直しについての活動報告会後に行われたこの日、神奈川県支部忘年会を同じ会場で開催しました。

平成21年の支部活動と会員相互の親睦を図るため、毎年この時期に開催していますが、この日は19名が参加して暫しカラオケやビンゴゲームを楽しみました。

2、ロボットスーツの体験と見学会の開催

3月13日、神奈川工科大学のキャンパス内にあるロボット学科において、ロボットメカトロニクスの中本圭治郎教授のグループが開発した、ロボットスーツ（パワーアシストスーツ）の体験と見学会を開催し、30名が参加しました。

障害者や高齢者に対する介護ロボットは、今大変関心が高いのが現状ですが、「高齢化社会に向けて開発されている福祉ロボット」というテーマでの介護ロボットは、果たして本当に有効かどうかについて、いろいろなことを考えさせられた見学会となりました。

ロボットの研究で有名な中本圭治郎教授の説明で進められた、パワーアシ

ストの性能は、12Vの電池2本並列により小型エアポンプを約30分間連続運転ができるというもので、このパワーアシストスーツを介護者の背中や足に装着して、患者をかかえるなどの介護動作を補助するというもので、実際に女性を軽々と抱え上げる動作を見ることができました。

また、これに関連した手の指を曲げるパワーアシストの開発も行われていて、それぞれの人に合わせてつくることができるという説明もありました。

しかし、この形で実際の介護現場で人を介護するのは現実的ではない、とも思えた見学会でありました。

3、神奈川県リハ病院におけるピアサポート活動

現在、支部では脊髄損傷者や重度障害者に対するピアサポート活動を実施するために、支部相談窓口を設けて電話でのピアサポートを行う一方で、平成20年度から神奈川県リハビリセンター病院内でもピアサポート活動を実施することを支部の事業計画としてすすめています。

支部は、8月31日に神奈川県リハセンター側と院内でのピアサポート活動のすすめ方について4階の会議室において話し合いを行いました。

出席者は、支部から山崎部長はじめ路川副支部長、妻屋の3名。リハセンター側からは、総務副局長、伊藤医師、横山医師、3F・4F課長、相談課の根本様、生方様が出席し、次のような事項について話し合いが行われました。

- 1、脊髄損傷者連合会の活動とピアサポート事業等について。山崎・妻屋が説明
- 2、協働支援事業の目的について。リハセンターの利用者等が早期から生活や人生の再構築に向かうための対応力への支援。

- 3、協議事業の内容について。

○ピアサポート、

○体験講習(更生ホーム利用者等を含め)。

○相互学習(医師・看護師・リハスタッフ等の協力)

- 4、試行期間の有無について、

試行期間の要否及び試行中の相互協議等について。

- 5、意見交換

- 6、今後の具体的な段取りについて

その結果として、毎週月曜日1階で、10時から15時まで活動することは今後話し合いで決める。電話、コピー機、FAX、パソコン等は支部で用意すること、などでした。

【ピアマネジャー現任研修会に出席】

ピアサポート活動の充実とピアマネジャーの資質の向上を目指すことを目的に全脊連の活動として、〔社〕日本損害保険協会の助成を受けて関東ブロッ

クが実施している、ピアマネジャー現任研修会が埼玉県支部主催で11月28日に埼玉県民活動センターで開催されました。

この研修会に支部から鈴木秀夫はじめ2名が出席し、ピアサポート活動や援助技術などの講習を受けました。

今回の研修会では、講師に埼玉県総合リハビリテーションセンターから上小鶴正弘センター長と医療相談科長の海津加代子先生を招き、ピアサポート活動の必要性和有効性や心構えなどについての講義を受けた他、相談のケースに対する支援計画やその記録のとり方の演習を行いました。

4、平成21年度支部総会の開催

平成21年度の第31回神奈川県支部総会は、6月20日、伊勢原市の「フォーラム246」において開催しました。

総会では、主に神奈川県や横浜市の在宅重度障害者手当の廃止に至るまでの報告と重度障害者医療費助成制度の存続活動の報告と、さまざまな支部主催の行事や活動報告が行われましたが、総会はこれらを了承。

各協会活動では、川崎協会の研修会の開催や横浜協会の中華街での食事会、また、県央協会の「イチゴ狩り」、西湘協会の「グラウンドゴルフ大会」の開催などの報告が行われたほか、湘南協会会長の病氣療養で不在になっていることを受けて、湘南協会の事務管理を西湘協会が担当することが報告され了承されました。

このほか、平成20年度決算報告と監査報告、平成21年度事業計画および予算が原案通り採択されました。

第5号議案の平成21年度支部役員改正案も支部提案どおり満場一致で採択され、神奈川県支部は平成21年度も引き続き山崎支部長の下で運営されることが決まりました。

今総会の成立の定足数については、会員総数130名のうち総会出席数は18名、委任状提出者が56名で合計70名と過半数を占め、この総会は成立しました。

〔スポーツ吹き矢〕

支部総会が開催された後 同じ会場でスポーツ吹き矢大会が行われました。

吹き矢競技は、男性チーム2組と女性チーム1組に別れて行われ、男性の部では県央協会の明比さんが優勝し、2位を落合啄哉さん、3位は新田輝一さんが獲得しました。

また、女性の部では、県央協会の城ノ上貴美子さんが優勝。2位に大井知子さん、3位には鈴木滋美さんという結果でした。

5、定例役員会の開催

支部の運営や会員に対する様々お知らせなどについて、役員全員の合議と協力体制のもと、円滑な事業実施を図るため支部定例役員会を開催しています。昨年度も隔月の6回開催しました。

役 員 会	開 催 日	開 催 会 場
第193回	平成21年4月19日	相模原市「けやき会館」
第194回	平成21年6月20日	伊勢原市「フォーラム 246」
第195回	平成21年8月23日	相模原市「けやき会館」
第196回	平成21年10月12日	相模原市「けやき会館」
第197回	平成21年12月12日	伊勢原市「フォーラム 246」
第198回	平成22年2月21日	相模原市「けやき会館」

6、支部会報「やわらぎ」の発行

平成21年度事業では、やわらぎ第83号の1回の発行でしたが、内容はやはり在宅手当ての廃止と2年間半額支給の経過措置を詳しくお知らせしたほか、平成23年7月に終了するアナログテレビ放送に代わる、地上波デジタル放送に関する障害者支援制度などを伝える記事でした。

やわらぎ第83号……………平成21年10月11日 発行

7、共同募金活動への参加

10月1日は、共同募金の日として駅前や街頭で募金活動が始まりますが、神奈川県支部も行事として毎年駅前などでこの募金活動に参加しています。

平成21年度は、いつものように10月1日に横浜駅西口で新田輝一、鈴木秀夫、滋美夫妻、妻屋事務局長他2名の合計6名で募金活動に参加したほか、10月5日には厚木駅前で、路川副支部長、町田安男夫妻、ボランティア2名の合計5名で募金活動に参加しました。

8、第8回全国総会大阪大会に出席

第8回全国総会は大阪府支部の主催で6月6日から8日までの3日間の日程で関西空港近くにある、全日空ゲートタワーホテルにおいて開催され、支部を代表して山崎支部長、路川副支部長の2人が出席しました。

全脊連の創立50周年を迎えたこの年の全国大会は、日本の障害者福祉の転換点にあることが改めて知られる大会となりました。

全脊連のこの50年間の活動の大半は、国に対する要求運動でした。しかし、政権交代により当事者自ら福祉政策を提言していく時代へと変化し、全脊連自体もこの50年を境にして意識を変えることが必要だといえる大会となりました。大会では主に、全脊連の公益法人化について説明が行われ、今後の

全脊連の活動のあり方が大きな問題となりました。

また、自立支援法の改正、障害者基本法の改正、障害者権利条約の日本における批准など日本の障害者施策の制度改革に障害当事者の意見をどのように反映させることができるのか、という大きな課題が今私たちに課せられていることも改めて認識させられました。

総会はこの後、次年度の大会催を広島県とする決議を行い終了しました。

9、関東ブロック会議茨城県大会に出席

全脊連のネットワークである関東各9支部が一堂に会し、各支部間の情報を共有する一方、様々な問題や要望事項などについて意見交換を行い、全脊連の活動に反映させるため、毎年各支部の持ち回りで開催しています。

平成21年度の関東ブロック会議は、茨城県支部の主催で9月20日、21日の日程で、ホテルレイクビュー水戸で開催され、支部から山崎支部長はじめ4名が参加しました。

会議では、各支部より事業報告や事業計画、本部からの提案議題などが報告されました。

ピアサポート活動についても議論が行われ、埼玉県支部から「埼玉県リハセンターとの話し合いが、なかなか神奈川県支部のように行かない」などの意見がありました。

また、障害者用駐車場に関して栃木県支部は、障害者手帳を確認の上、駐車するときに使用できるカード〔リモコン〕を発行している。

今後茨城県を始めその他の県でも順次発行される予定などの情報が話し合われた。

全脊連本部から公益法人化についての説明が行われましたが、神奈川県支部として「全国各ブロック会議ですでに支部決算報告などが公開されているので、それをまとめても良いのではないか」などの提言を行いました。

また、翌日のグラウンドゴルフ大会には、支部から明比勅さんが参加しました。

10、障害者用自動車の無料点検サービスの実施

障害者にとって自動車は欠かすことのできない必須アイテムですが、同時に安全運転と専門技術者による点検整備を定期的に行うことが、より安心に繋がります。

神奈川県支部では、従来から毎年 JAF 神奈川支部とニッシン自動車工業株式会社の協力を得て、無料点検サービスを実施して、障害者のカーライフを支援しております。

昨年度も10月24日、神奈川リハビリテーションセンター大型駐車場で点検

サービスを実施し、支部から17名が点検を受けました。

点検内容は、オイル交換5台、オートボックス点検、4 台、手動式点検17台などでした。

また、「トヨタジョイパークみなとみらい」においても10月7日・8日の両日、神奈川県支部主催、横浜市身体障害者団体連合会の共催でトヨタ神奈川の協力により、ニッシン自動車工業〔株〕の無料点検サービスを実施しました。

11、各協会活動

〔1〕川崎協会

①「介助犬研修会」の開催

11月15日、川崎市国際交流センターにおいて、介助犬育成の専門家である社会福祉法人日本介助犬協会の川崎芳子理事長と国内で初めて介助犬を使用された野口利男氏の両氏を講師として招き「介助犬ってなににするの？ 聞いてみよう介助犬のあれこれ」をテーマに、研修会を開催しました。

研修会では、介助犬の基礎知識についての講義をはじめ、実際の介助犬3頭も出演して、利用ケースのデモンストレーションを6名のボランティアで行われました。この研修会には、関係スタッフあわせて総勢46名が参加するなど好評を得ました。

また、この後、会場をレストランに変えて、川崎協会が主催する懇親会が行われ、参加者31名が食事を楽しみながら和やかに歓談しました。

〔2〕横浜協会

①「横浜マリントワーでディナーを」の開催

10月16日、新しくなった「横浜マリントワーでディナーを」を開催しました。横浜の名所であるマリントワーは、これまで長い間車いすでは利用することができなかったが、2009年に改修が行われ新装オープンし、全館バリアフリーとなったことで、車いすで利用できるようになりました。

この日のディナーは、レストランのメイン料理のローストビーフでしたが、ディナーの後は参加者全員で展望フロアーにのぼり、夜景を心行くまで楽しみました。

またあいにく台風接近のため、開催が1週間延期されましたが、30名が参加しました。

〔3〕県央浜協会・西湘協会

①「皆でグラウンドゴルフを楽しもう！」の開催

県央協会と西湘協会の共催による「皆でグラウンドゴルフを楽しもう！」

は、9月26日に南足柄市運動公園多目的広場において開催され、19名が参加しました。

トーナメント方式で行われたこの日のグラウンドゴルフで優勝したのは、県央協会の城ノ上友一さんでした。

また2位には、同じく県央協会の明比勲さん。次いで3位は、千葉県支部から参加した松田利夫さんがそれぞれ賞品を獲得しました。

12、その他の活動

1、7月24日、かながわ県民センターで開催された神奈川県社会福祉協議会の平成21年度第1回第2種・第3種正会員連絡会と研修会に山崎支部長が出席しました。

2、山崎支部長は、8月17日・1月25日の両日に日本自動車連盟神奈川支部会議室で開催された、JAF神奈川支部交通安全委員会に出席しました。

3、平成21年度第2回の神奈川県障害者施策説明会が2月13日に神奈川県社会福祉会館で開催され、山崎・町田の2名が出席しました。

4、路川副支部長は、4月25日の神奈川県障害者施策説明会に出席しました。
また、9月2日・9月6日・3月9日・3月17日の神奈川県社会参加推進センター推進協議会委員会に出席しました。

また、11月14日には、茅ヶ崎文化会館で開催された「障害者スポーツの区分を考える」研修会に出席した。

5、神奈川県支部は、平成22年度の神奈川県障害者社会参加推進センター社会参加推進協議会委員に平成20年度に続き、路川十九夫副支部長を推薦しました。

6、赤城副支部長は、3月18日・6月2日・2月8日に開催された、かながわ福祉サービス適正委員会に出席し、10月5日には、藤沢市社協の福祉サービスについてチェックを行いました。

7、加盟している「これからの障害者と患者の福祉・医療を考える連絡会」が主催する「安心して利用できる福祉と医療を目指して」と題したフォーラムが10月25日に横浜市健康福祉総合センターで開催され、妻屋事務局長がシンポジストとして出席しました。

8、2月13日に妻屋事務局長は、麻生市民館文化ホールで開催された、映像工房ペリが主催する第4回「YOU GO 麻生」の朗読舞踊劇、「花のき村と盗人たち」を観劇しました。

以上